

## 第 8 期湖沼水質保全計画策定検討会 第 3 回会議 議事概要

### 1 日時

令和 3 年 3 月 22 日（月） 13:30～15:30

### 2 場所

ピュアリティまきび 2F 白鳥

### 3 出席者

委員 11 名

### 4 議事要旨

#### (1) 前回の指摘事項と対応

質疑なし

#### (2) 第 8 期水質シミュレーションモデルの検討の方向性

(委 員) : 湖内 SS 濃度が低下した理由を不明としている (P14 図 I-12) が、浚渫の影響があるのではないかと。浚渫事業は平成 15 年 (第 4 期計画) に完了しており、計画期ごとの季節変動を見ると、その前後で傾向が変化しているようだ。

(委 員) : 水収支の検討でモデル計算値と実測値を比較したグラフ (P30 図 1-27) を示しているが、西北七区の灌漑期は数値が乖離しているにもかかわらず、丸印が付されていないのはなぜか。

(事務局) : 西北七区には、児島湖との水位差により取水できる 5 号排水機場 (廃止) があり、ここでの取水量がシミュレーションで再現できていないことが分かっているため丸印を付していない。

(委 員) : 水質シミュレーションモデルにおいて不確実性を示してはどうか。実際の現象と照らし合わせて、パラメータは幅をもって設定し、算出する予測値はある程度の範囲で示した方が良いと思われる。

例えば、水質予測値を 1 年間 365 日の変動範囲で示し、対策の効果を検証する際には、5 年前と比較した場合の有意差を確認するような手法が良いと思われる。

(委 員) : 透明度のシミュレーションにおいて D-COD が重要な係数ということであるが、D-COD の再現性を示す図等はあるか。再現性は良いのか。

(事務局) : D-COD の再現性は掲載していない。(第 2 回会議資料 3 P24 に掲載) 実測値では季節変動が確認されたが、モデル計算値では再現できておらず、今後の課題と

認識している。

- (委員)：児島湖流入水量を算出する式の「水位低下量」(P19)とは何か。
- (事務局)：児島湾締切堤防の樋門を開ける際に生じた湖水位の低下量(高さ)である。
- (委員)：今後の対応の所で気象条件の影響を確認すると記載されているが、もし気象条件の影響が大きいという結果が出た場合、そのあとどのように対応する考えか。
- (事務局)：今の時点では明確な方針は定まっていない。第7期計画策定の際は、現況年度と同じ気象条件で将来水質を予測し、目標値を検討した。第8期計画においてもこの検討会で結果をご覧いただいて目標値を決めることになると考えている。
- (委員)：一定の気象条件を仮定し効果を算出し計画を立てるというのは理解できる。一方、これまでの評価、という観点では気象の影響を把握する必要があり、p42のポツの2つ目は意味があると思う。本当は効果があったのか、無かったのか評価する必要がある。また、計画を立てる段階においても、対策の効果が必ずしも出るものではない、というはある程度、内々には計算結果を見て認識しておく必要があるのではないか。気候変動の影響をどこまで取り込むか、ということにも関係するので、2点目のポツについては早急に結果を見てみたいと思う。
- (事務局)：頂いたご指摘については、次回の検討会でお示しできるようにしたい。
- (委員)：5月及び6月の透明度に影響するSS以外の要因(P3表I-1)とは何か。
- (事務局)：確認できていないが、6～8月にD-CODが上昇する(P9図I-5)ことが影響しているのではないかと考えている。
- (委員)：5～6月の透明度又は透過光とその年の水生植物の葉の展開量の関係が何か読めるとおもしろいと思っている。
- (委員)：5～6月の透明度について、農業用水路等の浚渫や清掃、通水が行われる時期であり、その影響が大きいように思われる。SS(重量)よりも透明度に影響する濁質が流れているように思われる。
- (事務局)：今回は年間を通じた近似式(P8表I-3)を求めたが、5～6月は別途考えるべきということであれば検討したい。
- (委員)：LQ式を使うということを提案しているが、LQ式の回帰式は観測値の最大値によって傾きが大きな影響を受けるため、最大値の値がなぜこのぐらいの値になったのか、ということを見ておく必要がある。極端な災害が起こるようなときの負荷量を使わないようにして回帰式を作成したほうが良い。
- (事務局)：基本的に公共用水域の常時監視の結果を使っているのですが、異常時のデータは含まれていないと思われるが、注意してデータを確認する。

### (3) 第8期計画の骨子(案)について

- (委員)：高度合併処理浄化槽の整備促進(資料3-2P1 2(2))について、現行計画には記載されているが、次期計画に記載されていない理由があるか。一般家庭を中心

に高度合併処理浄化槽が導入・促進されることにより、小規模な工場・事業場へもその普及につながるのではないかと考えている。また、流出水対策のうち農地対策（資料 3-2P5 4(4)①）について、現行計画で代掻きの記載が次期計画で浅水代掻きに変わっていることについて理由があるか。

(事務局) 高度合併浄化槽については、循環型社会推進課、市町村に確認して記述を入れていきたい。浅水代掻きについては「浅水」の文字を削除頂きたい。

(委員) 生活排水対策（資料 3-2P4 4(2)⑤）について、下水道に未接続の家庭を対象としているのか。また、ディスポーザーの使用が禁止されている理由はあるか。

(事務局) 生活排水対策は、下水道に接続している家庭も含めた普及啓発である。また、ディスポーザーについては、下水道普及率が低い時代に定められた児島湖環境保全条例に原則禁止の規定があるため記載している。

(委員) 気候変動への適応（資料 3-2P8 5(6)）について、次期（第8期）計画で予測又は影響評価の手法を決め、第9期計画で適応策や対応策を含めた計画を策定する必要があると思う。そのためには、気候変動に関する研究を検討するべきである。

(事務局) 児島湖は他の湖沼とは条件が違うが、情報収集を進め、計画や調査研究の中でも提案していきたいと考える。

(委員) 2点ほどお聞きしたい。最近のユスリカの状況は把握しているか。ユスリカ対策として環境改善等を進めなくてはならない状況なのか。

(事務局) ユスリカの発生状況は、以前ほど悪い状態ではないが、年による変動があると聞いている。年により水質等が変動しているわけではないので原因は分かっていない。

(委員) 水辺の保全（資料 3-2P8 5(5)）について、公園の適正管理ということであれば、タイトルは「親しみを持つための施設の維持管理」などではないか。

(事務局) タイトルについては再検討したい。

(委員) 単独浄化槽から合併浄化槽への転換促進（P3 4(2)③）について、浄化槽法改正による浄化槽処理促進区域を活用するようにしてはどうか。

(委員) 被覆肥料カプセルの流出防止（P5 4(4)①）について、どのような技術指導をしているのか。前年に施肥したカプセルが代掻きの際に浮遊し流出していると想像できる。

(事務局) 農林水産部の栽培技術指導の際、被覆肥料はしっかりすき込むよう指導しており、そういった指導を徹底してもらうことを考えている。前の年のカプセルもあるうが、追い肥として撒いたカプセルが流出しないように注意したい。

(委員) 旭西下水処理場である。現在は雨天時流出水の処理をしているが、非灌漑期に児島湖が汚れるので、非灌漑期に汚水量の一部を旭川に出せば、児島湖の負荷量は減るのではないか。なおかつ、漁民の方からは窒素を出してほしいという要望も

あるようなので、それとリンクさせるようなことは考えられるのかどうか。

(事務局) 旭西の下水処理場については合流改善の工事が終わっていて、大雨が降らない限りは児島湖流域下水道にすべて流している。現時点でそのような運転を行うという話は聞いていないが、頂いたご意見については関係課に伝えたい。

(4) その他

(事務局) : 第4回会議は6月ごろに開催したい。後日、事務局が日程調整等の連絡をする。

以上